

- 問1 岡山県吉備中央町では、農業の活性化を目指して独自の取り組みを行い、果実の産出額を大幅に増加させました。この町が行った施策と、その結果として生じた農業経営の変化について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 宮城県公立入試 類似)
1. 町が主体となって耕作放棄地を「ぶどう生産団地」として整備し、研修体制を整えたことで新規就農者が増加し、1戸あたりの経営規模が拡大した。
 2. 海外からの安価な輸入果実に対抗するため、大規模な機械化による省力化を徹底したことで、農家1人あたりの労働時間が大幅に短縮された。
 3. 伝統的な栽培技術を保護するために、特定の熟練農家のみに補助金を集中させた結果、希少価値が高まり、少量生産ながら産出額が維持された。
 4. 都市近郊であることを活かして観光農園への転換を全面的に推奨した結果、農家数が増加し、多品目の農産物を少量ずつ生産する形態が定着した。
- 問2 中国・四国地方の政治や経済の拠点である広島市には、国の省庁が設置する組織や、民間企業の支店が数多く集まっています。このような、特定の地域全体を管轄する国の組織を何と呼びますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 特別区
 2. 出先機関
 3. 地方公共団体
 4. 独立行政法人
- 問3 四国地方の愛媛県や高知県付近の気候と農業の特徴について述べた文として、適切な組み合わせはどれですか。 (2018年 東京都公立入試 類似)
1. 内陸部特有の年間を通じて雨が少ない気候と、砂丘地帯でのメロンやラッキョウの栽培。
 2. 季節風による冬の積雪と、広大な平野部での大規模な機械化による稲作。
 3. 寒流の影響による冷涼な気候と、冬の乾燥した晴天を活かしたリンゴなどの栽培。
 4. 暖流の影響による温暖な気候と、台風がもたらす多量の降水を活かした柑橘類などの栽培。
- 問4 広島県廿日市市の宮島に位置する世界文化遺産について述べた文として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 平安時代の貴族の住宅様式である寝殿造が取り入れられ、海上に立つ大鳥居や社殿が特徴である。
 2. 徳川家康を祀るために江戸時代初期に造営された、豪華な彫刻や装飾が施された神社である。
 3. 核兵器の惨禍を伝えるために、被爆当時の姿のまま保存されているリング造りの建物である。
 4. 島根県に位置し、日本最古の神社建築様式の一つである大社造で建てられた社殿を持つ。
- 問5 ある統計資料において、果実産出額が497億円に達し、近隣の県や三重県などの他県と比較しても非常に高い数値を示している県があります。この県では、瀬戸内地方の温暖な気候を活かして、みかんなどの柑橘類の生産が盛んに行われています。この特徴に合致する県はどこですか。 (2019年 三重県公立入試 類似)
1. 青森県
 2. 愛媛県
 3. 和歌山県
 4. 宮崎県
- 問6 山陰地方において、冬の降水量の割合が年間の約30%に達するなど、冬の降水量（降雪量）が多くなる理由として最も適切な説明はどれですか。 (2023年 群馬県公立入試 類似)
1. 日本海を流れる寒流の影響により空気が急激に冷やされ、沿岸部で霧や雨が発生しやすいため
 2. 冬に日本海を渡ってくる湿った北西の季節風が、中国山地にぶつかり上昇気流が発生するため
 3. 冬に太平洋から吹く湿った南東の季節風が、四国山地にぶつかり雪雲が発達するため
 4. 一年を通じて梅雨や台風の影響を強く受け、特に冬は熱帯低気圧の通り道になるため
- 問7 中国地方の日本海側に位置する島根県の特徴について、正しい説明はどれですか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 県庁所在地が鳥取市であり、砂丘などの自然景観が有名である。
 2. 県庁所在地が山口市であり、本州の最西端に位置している。
 3. 県庁所在地が松江市であり、県名と県庁所在地の名称が異なっている。
 4. 県庁所在地が岡山市であり、県名と県庁所在地の名称が一致している。
- 問8 ある地域の地形図において、標高約332mの山頂であるA点から、海岸沿いの平地地であるB点までの断面図を作成する場合、等高線の読み取り方とその結果として得られる地形の記述について、適切なものはどれですか。 (2017年 和歌山県公立入試 類似)
1. A点とB点の中間地点で等高線が最も密集しているため、断面図では中央が最も盛り上がった地形になる。
 2. A点付近は等高線が密集しており、断面図では高い位置からB点に向かって急激に標高が減少する曲線になる。
 3. A点とB点の等高線の間隔は等しいため、断面図では一定の傾斜を持つなだらかな斜面として描かれる。
 4. A点付近は等高線の間隔が広いいため、断面図では低い位置から始まり、B点に向かって標高が急上昇する。
- 問9 愛媛県において、米や野菜など他の農産物に比べて、みかんなどのかんきつ類を含む「果実」の生産が非常に盛んである理由として、地理的な環境の観点から最も適切な説明はどれですか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
1. 広大な平野を活用し、大規模な機械を導入することで効率的な生産が可能になったため。
 2. 年間を通じて降水量が非常に多く、常に大量の水を必要とする果実の栽培に適しているため。
 3. 急な斜面が多く、日当たりや水はけが良い土地条件を活かして栽培が行われてきたため。
 4. 冷涼な気候を活かして、他の地域では栽培が難しい高冷地野菜を生産しているため。
- 問10 山口県が属する瀬戸内工業地域において、化学工業をはじめとする重化学工業が発達した背景として、地理的条件をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 三重県公立入試 類似)
1. 広大な平野を活用した大規模な機械化農業との兼業が容易であり、農閑期の労働力を活用した繊維工業から発展したため。
 2. 波が穏やかな瀬戸内海の沿岸部に埋め立て、大型船による原料の輸入や製品の輸送に便利なコンピナートが建設されたため。
 3. 京阪神・中京・関東の三大都市圏のちょうど中心に位置し、高速道路網を利用した部品の組み立てや加工を行う内陸工業が発達したため。
 4. 内陸部の険しい地形を利用した水力発電によって、安価で大量の電力を得ることが可能になり、アルミニウム工業が発達したため。
- 問11 日本の農業に関する統計資料において、農業就業者1人あたりの耕地面積が約1.6haと全国で最も小さい水準にありながら、農業産出額における野菜の割合が他地域よりも高い地域が見られます。このような地域が、北海道のような大規模経営を行う地域と比較して、生産を維持するために重視している経営上の背景として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 広大な原野を牧草地として活用し、一頭あたりの生産コストを抑える背景
 2. 限られた耕地に多くの資本や労働力を投入し、土地あたりの収益性を高める背景
 3. 労働生産性を高めるために大型機械を導入し、一人あたりの作付面積を拡大する背景
 4. 温暖な気候と豊富な水資源を利用し、米の二期作によって収穫回数を増やす背景
- 問12 2022年の統計において、ため池の数が多い上位3県は兵庫県（22,047）、広島県（18,155）、香川県（12,269）となっています。これらの県で共通してため池が多く作られてきた背景として、正しいものはどれですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 冬の降雪量が非常に多く、春先の雪解けによる洪水を防ぐための調節池として活用するため。
 2. 年間を通じて降水量が少なく、農業用水を確保するために雨水を貯めておく必要があったため。
 3. 標高が高い地域が多く河川の勾配が急であるため、生活用水を確保するダムへの代わりとして整備されたため。
 4. 内陸部で大規模な河川が不足しており、工業用水を安定的に供給するための貯水施設が必要だったため。